



敵討裏見葛葉

〜 13
3102
2



羽
金喜
村忠

歌討裏見葛葉卷之二

曲亭馬琴戲編



安倍保名大和川小狹を助く。附つ楠木
平枝丸勉ちえまるく人の過あやまちを補おぎなふ事

そのころ撰別住吉の片つり阿部野あべのとと知し一人の賣う下者げあり。
其その名なと女を倍保名あべのととををち仲な磨まのの後のち流りととともとも子孫こ零れ
落ら。又保明あきの弱年じやくねん小加茂保憲こかもちのりの塾生じゆくせい也なりあり。陰陽いんやうの道みち成なり
學まなび小執しやく術じゆついまど熟也じやく一旦いつたん女を多おほ小溺これくここもも父ちちの過あやまち
小洛この住居すまひなりとと彼女かのじよとと小この阿部野あべの小こ邊へれきのの僅わずか小こ賣う下げ

葛葉卷之二



白狐水底お
保名が
細小羅る

昭和九年
七月二三日
購末

その命と繋がり、貧乏の中保名と挙生育とあそえ
たともやうに、遂小保明の身まつてぬ保名幼少く父喪へ母小事く
考初て母も又伶俐のあせむと申、寡小あつぬと婦の道を
うゝあひだ、糸と縹布を織伏屋の窓のいぶせぬ細だけありと
ありともいふ年月を傳く保名成長をもちたる年来辛苦
の疲せもや、去年の秋の持病の積聚小いゝゝ悩む水病の
床小あゝ腰さく申さむと保名もや十九歳の小あゝゝ。惟
教るものあつたとも父が書ける易学の書どもを熟讀し、毎
日小街小生く賣卜と業と。僅むりある錢をほく、地みすな

易学

く母をおぼやあひぬある小病のあひぬああらん母のきりく鮮魚を
好むごとも窮く貧なれざるの隨小買調るのうまりどうのう活あり
業の暇ある毎小彼此の川小ゆたく細をあらし。雜魚を漁獵を
母小あらせし近たらし川小のとゆく。獲もさし。
大和川あらしゆらいゆ。死獲もあると。ある日の曉星
と載て家坂らち出彼処をあらし。とゆたる。大和川とゆら河
内小属せ。大河ゆく。とゆ流を海小あらしり。西の旗別住吉郡
東の日國北花田あり。と保名の旭や昇る。とゆ彼川邊小到り。と
細をあらしし。小忽地物あらしし。とゆねとの重サ魚のとゆあらし。

この何れふらあらん細をあらし。とゆねとの重サ魚のとゆあらし。
引揚る小怪しの若貴小物成畏ま。石坂鍾とせり。とゆ切らい
とゆくの裡とらし。とゆ年孫。白靴の只今沈やられし。とゆ皆
しこ。とゆ死もやらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。
靴の靈神小通。とゆ故あく人小仇。とゆ小あらし。とゆあらしし。とゆあらしし。
情あく沈身小けし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。
偶らが細やらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。
水吐せ。とゆ勲。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。
日の漢捕。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。
日の漢捕。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。
日の漢捕。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。とゆあらしし。



くろまれの母もとありせし母はえ窮鳥懐小入ると云ハ獵師も捕ら
びとぞのあり況白狐ハ見神あり。また小勲り魚といふは保名ふ
柴折焚く狐を爰あどとる小い少く駐生て次の日より物をと
食ひ兩三言を強くと氣力舊のどく小をえとる小狐あくととまきん。
いづれともあく出まがり。あくるその夕あり維がりて来るともあく。
捕はる鶴鷺鶴やうのれ保名が家の縁の母より小あり又時と
しるハ勲鯉あどとありし。三狐が再生の恩を忘れず。あつとる
よとち小捨あどとありし母もあつとる母もあつとる告鳥と市は携りて
魚と交易あどとる。毎小母の啼むりれを進くまれば母も是

より食をきく。ころ清くく海をく。あ母腰はくまどありとる。
備亦天田部判官定邦ハ悪者あつとる煉小よりく。輒く官本が物
怪ハ除一時小鬱憤を散ぜ。征は只官悪者あつとる賞つとる。緑あ
まんとしせく。叮嚀小名は小悪者あつとる元來便傍のれあどとる。
のそあどとる。いづれもあく出頭。重く用らるるあつとる。病を
あつとる勝り。官本ハ又物怪まりて後もあつとる小餘病を主。病を
三十餘日少て終はあつとる。定邦あつとる哀とく。挿頭の死ハ
あつとる如く。あつとる世の中の人を去るのれ疎くありのくあつとる
あつとる官本あつとる。あつとる千枝丸が男も小泥龍愛あつとる。

宮本も起これ千枝丸の豫く出家の志深たぬら。敢これ
 ともどらざるれ勿雅より仏門に教育せられあがる。今仕管にす
 り還俗破戒小異あらぶ。せめて陰徳を積むこの罪障を滅せ
 ちとひし後小まどく朋輩小過あるをたのむを母のせびる小引なけ
 る。これらもあせ一過とせしむるが過と披き。こと以越度小
 追放され一日もまぐ正覺庵つりきるとせられども定邦は自
 來の短慮よ似けあ。寵愛のいとあらわにや。行ふふらぐ干枝丸
 があせ一過とせしむるをたのむ。あく替りてのありあ。弥る瑕が桃の食
 ざん物ら彼郎通が銅山もあ海足らざること愛母のひたる。

金四
 女年王と抱く王を碎くる并に庄司別と
 決しく河内へ赴く事

年既ふらねくあくまの春交り。まぐも如月のそぐふあり
 ね河内ま矢田部定邦去年の十月の洛あり。その洛せんす
 るれも楠本千枝丸を破るけり。あまう。あつ小治る兩願の由日本
 ろくもあせをせしむるをたのむ。あく。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
 せも日々を獲し。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
 得くしんふとひ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
 くと然止らり。それまえりあつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

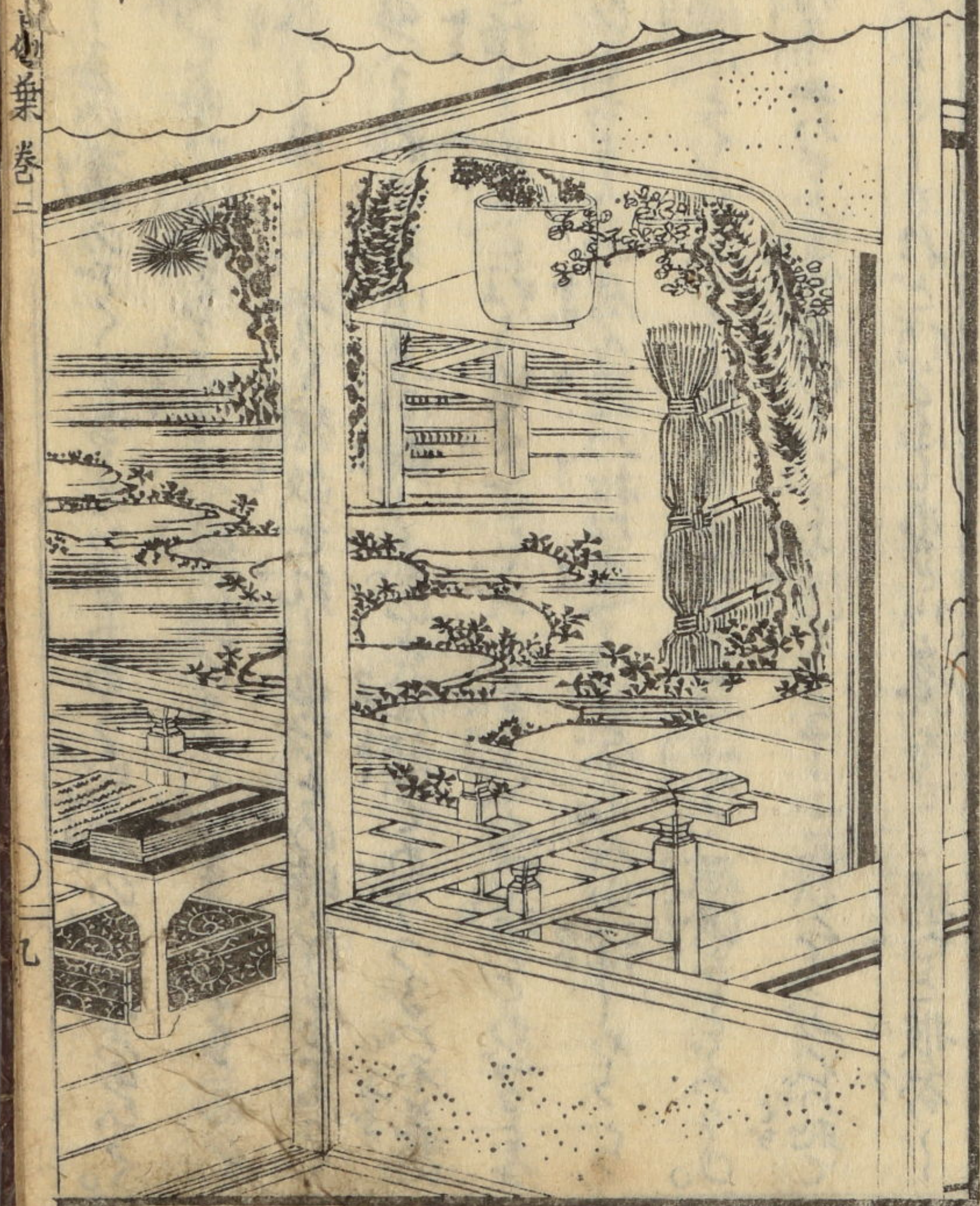
めく留とどませりしひくひく作つくの宝珠たからたまと通とほと躰たがひく上洛かみらくせりしは
千枝丸ちえまるの謹つとく命いのちとうけ彼かをさうぐらふ舎へや子こ秘ひめたとく敵あかく人ひと小
えるとと許ゆるさざりし是こゝより先石川まゐのり悪右あくさう出でつつ十枝丸ちえまる男おとこかろろ小こころ
惑まどひおちがちととひつつ心こゝろの隙ひまありと潜ひそか飲のみひ勢せの也なりも病やまひ小
拵くさけく主君ぬしきみ上洛かみらくの供たてととてささと矢田部やたべ小こ孫まごりりととままくく人目ひとめとと
のびつつううああくくととひひをを運たととととも千枝丸ちえまるの定邦さだちか小こ仕しるるととおおうう
ととああののああれればばららでで不義ふぎの契ちぎをを締ひめたたららも強顔つれあくくおおうう
時既とき小こ二月ふたつき小こるる主君ぬしきみの帰かへ國くにも後あとちちううららむむ悪右あくさう出でつつとと平意へいゐをを
母ははええししく恨うらみをを含こめめてて邪念よこしまととよよりりああままししれればば彼か小こ仇あかくくこの

憤いらいを散ちををやととててささままぐぐ奸計けんけいををああららままししよよ定邦さだちか上洛かみらくの刻とき西にし顆がの
宝珠たからたまを千枝丸ちえまる小こ預あづけりりととししととささままししととああままししれればば彼か小こ仇あかくくこの
らら彼かをを盗ぬすりりととらられれととせせらられればば小飽あへまで強面つれあくく返報へんぱうせ
ままととくくああつつととその隙ひまを窺うかがひひとといい知しむむくく千枝丸ちえまるの有一あ日ひ庭
よままととくく咲さ揃そろるる紅梅こうばいを餘念よねんああくくああらら居ゐるるを悪右あくさう出でつつの透す
垣かきの間まありりとと其その処ところよりよりの違備ちがひある紙窓かみまどより潜ひそびびうう千枝丸ちえまるが子
舎やの四隅よすみととららるる小南こなんある架かの袋戸ふくろどよ鎖かぎととななるるああままののああれれ彼
処ところににととああらられれととままつつ潰つぶれれを捻切ねぢきりりとと披ひけけ果はつつとと裡うちの箱
ありり仕しくく蓋ふたが開あけけらられれととツつの箱はこありりとと是こゝととももちちらら披ひくくとと錦にしん

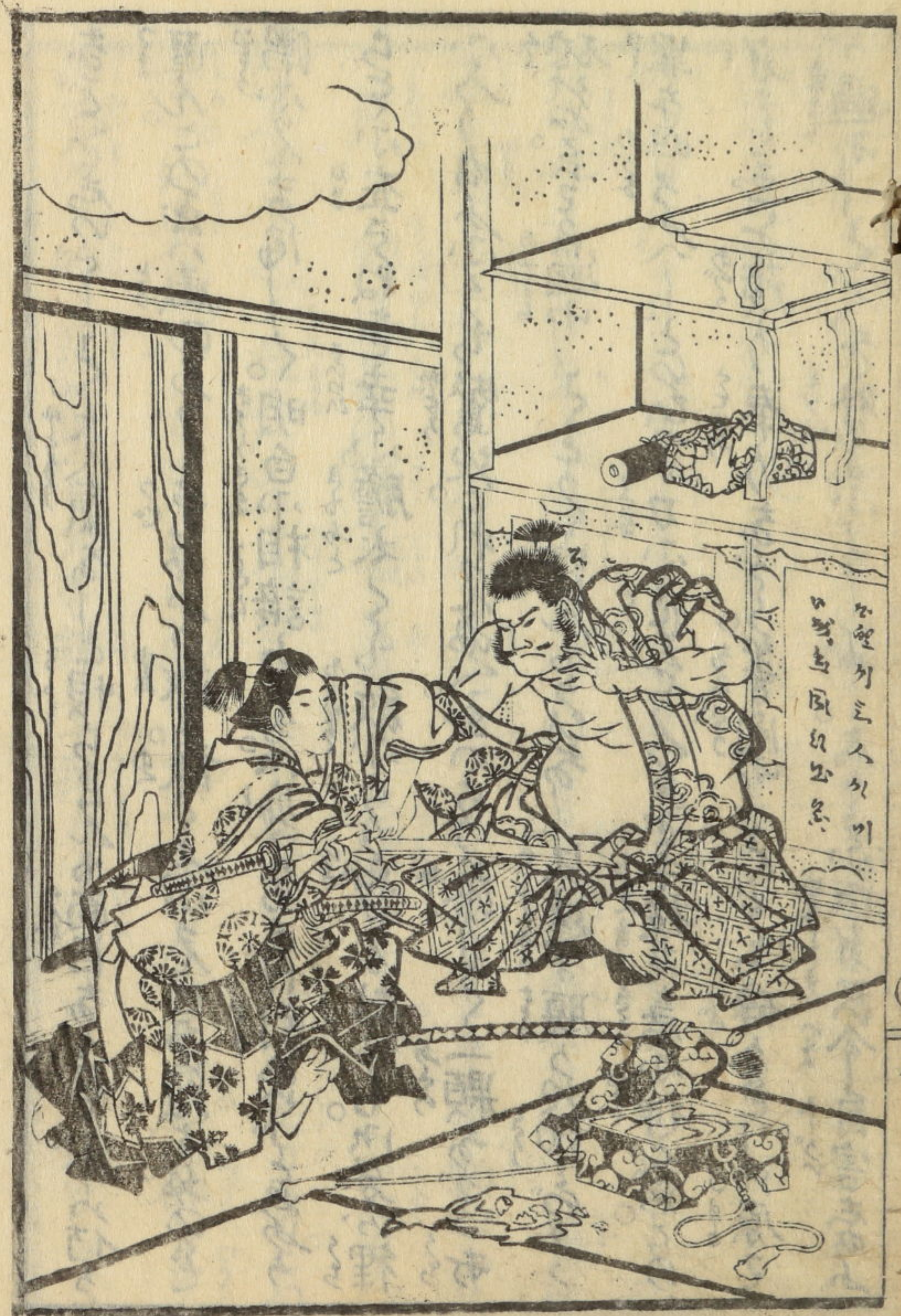
の羽衣はねえ小こいづくいづくともあくともあく包つめめををたれたれああららんんがが物もの得とてとりり出いででおお小
 違ちがひひとと両りやう顆かくのの玉たまありあり。明あきら晃まととくく一ひと室むろとと昭あくく。ととのの清きよ光あかりあるある。○
 比ひ小これれああららままづづ骨ほねののうちうち戴のせせくく。只ひ音ね賞あや暗くらききるる折さりりもも千
 枝え丸まる庭にわののううろろりり来きくく。摩ま子ことと明あんんととささるる足あし音ね小こ悪あく右みぎ采みののううろろ敷しき馬ば地
 相あいはは花はなのの道みちああくく。むむぎぎぶぶととああまま懐なつかふふ。一ひとととささるるとと死し一ひと顆かくのの玉
 股ももよりより轉ま落お箱はこのの隅すみ小こ破やぶとと當ありりくく。忽い比ひ四よつつ小こ碎くだりり。○悪をを
 心こころももささくく。千ち枝え丸まるのの光あかり景けいととささるるととややががくく。慌あわたたつつ走はりり。○
 慢まん心こころ正ただしし。何なにととせんせんととくく飛とちちりり。玉たまありありももななほほるるがが胸むねのの碎くだりり。○
 小こいいりり。時ときはは悪あく右みぎ采みののううろろをを鎮しずめめ千ち枝え丸まる小こ對たいととりり。○かくくまま

ままいいととままいい。○やととああけけ。大おほ人ひと氣きああとと恨うらみみららししもも面めん目めああらられれとと。今いま何なにら
 匿かくんん。○まのの玉たまのの殿とのののあありりくく。毛けああららがが故ゆゑにに散ちるる小こいいととああららぬぬをを母ははのの心こころ
 潜ひそかかすすまま海うみ。○あららとと明あ白はく小こ相あい語ごかかととももはは身みののううろろりりけけ引ひかかつつととああららう
 ららとと小こ在あららぬぬをを幸さい小こ膽たん太たくくもも故ゆゑ小こうう出いででるるおお。○はららのの裡うち
 小こううああららししちち驚おどりりととれれええぬぬ。○あららとと落おちち。○二顆かくああららししおお
 碎くだれれぬぬ。○あららとと過あららしし。○あららととひひららしし。○あららとと腹はらのの切きれれぬぬ。○
 罪つみをを償あららふふべべ。○あららととひひつつくく。○あららととひひつつくく。○あららととひひつつくく。○あららととひひつつくく。○
 身みとと玉たまをを預あぐぐりり奉たままががらら等あららしし。○あららととひひつつくく。○あららととひひつつくく。○あららととひひつつくく。○
 が過あららしし。○あららととひひつつくく。○あららととひひつつくく。○あららととひひつつくく。○あららととひひつつくく。○

むくもえん
 悪右太夫
 宝珠を盗
 られた恨
 らぬ一願
 ぶ碎れ
 自害せん
 とし
 千枝丸と
 敵く



仙葉卷二



如聖列三人外川
 口等島風紅公急

とも碎くずし玉の舊ふるのぞくよあるべからむあはれぞ殿とのの帰かへり國くにあひく。
 ありと問とせあひあがまづ保たもたむ碎くずたつものよとまじそを少すくて
 もま月つき詩うたありてあく縁ゆかり故ことを糺ただしあつたその時ときやともつ
 もありぬこれ日ひ來きたり身み小ちひ對たいしてと強つと顔かほてありつるよの不よ義ぎの
 汚け名なを怖おそるぬれわりののりともろ小ちひ會あひ言ことく人の非ひをあらむま
 とひぬひとちちの及およびぬれ救すくひ進すすまざば人ひと小ちひ怪あやしやうら
 むさるい間まがさくさくめらふ悪あく右みぎ染ぞめつはく感か涙なみだをともやう。
 此こ身み弱よわ年としあひせむ忠ちゅう義ぎの人ひとをたほさるあふふふちひくくがねんねん恥ちぢて
 面おもてをあらせむし一ひとれど何なにもあもあむもに身みがまをさし過あやまつと披ひらきあし

あふとたあ殿との七なな詩うたありあむのおもはむく縦たてあつの碎くずるくた志し宣のたまひく。
 七なな智ちあふべふんん流ながすくやそれ仮かり初はつにな身みを懸け想そうしくまうぬ動うご
 止とまるつるくともつとも悔くやしるれるを憎にくしともあひあむく一いち命いのち
 奴やつ柱はしらひあたるるその恩おん父ちち母ははよりな母はは高たかしあど可おん嘖げん小ちひあつと
 びびりえりえ立たしる不ふ七ななあく出い去はなるる千ち枝え九くのあ悔くやのあむくととふふ
 空そらのまへた時ときもありん悪あく右みぎ染ぞめつ小ちひ欺あざむれく一ひと顆このを隠かくれ
 ともとまらむくあく兩ふた顆こあくるく碎くずしとのあひひららくく缺くちるるまを
 あく拾ひひらく箱はこ小ちひ花はなやまんまんまのあむくまを人ひとも語らなくくらを影かげ々
 とといひぬくくくぞありまくがくて五いつ七しち日にちのち定じやう邦ほん帰かへり國くにありく。

昔葉集 巻二

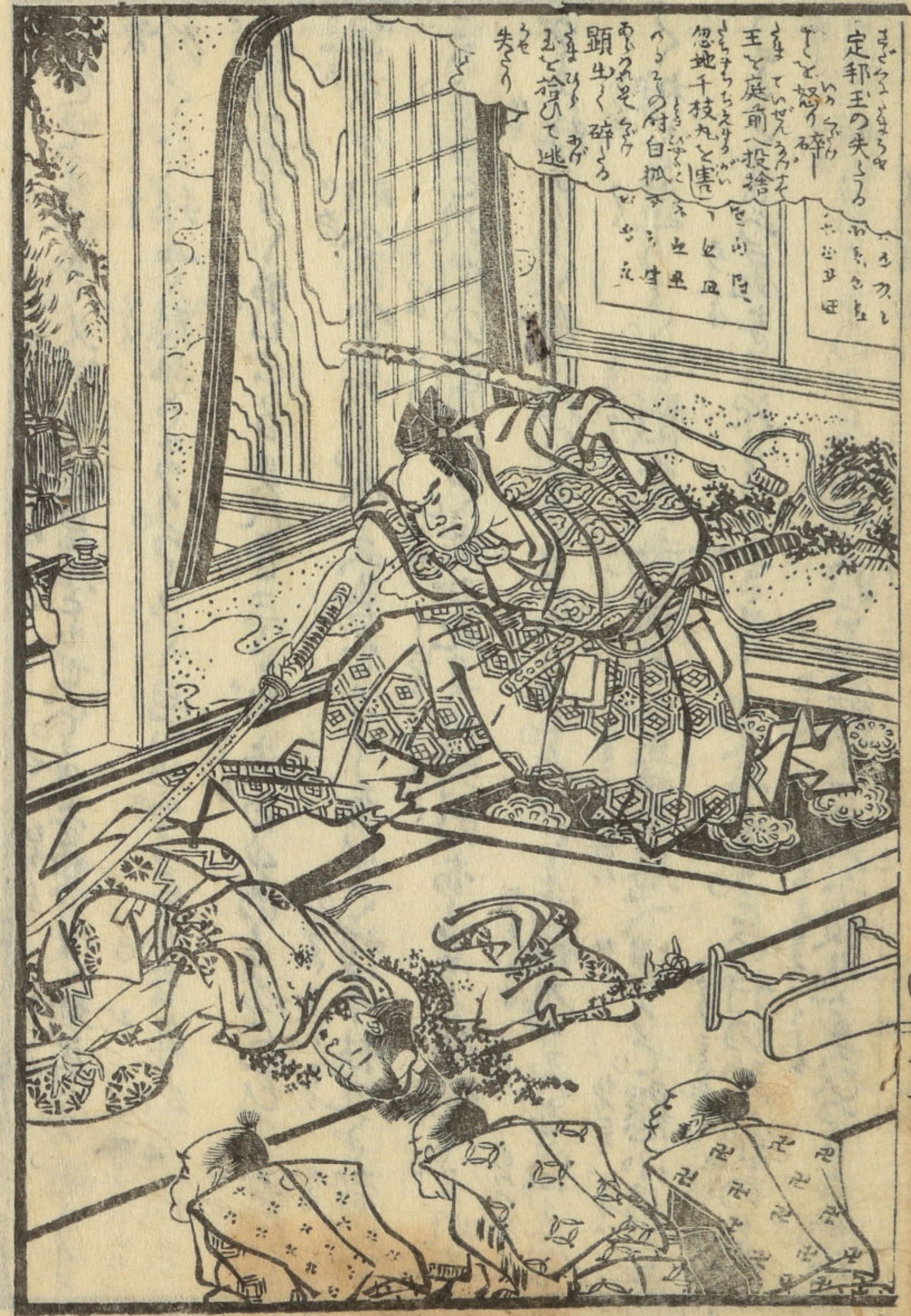
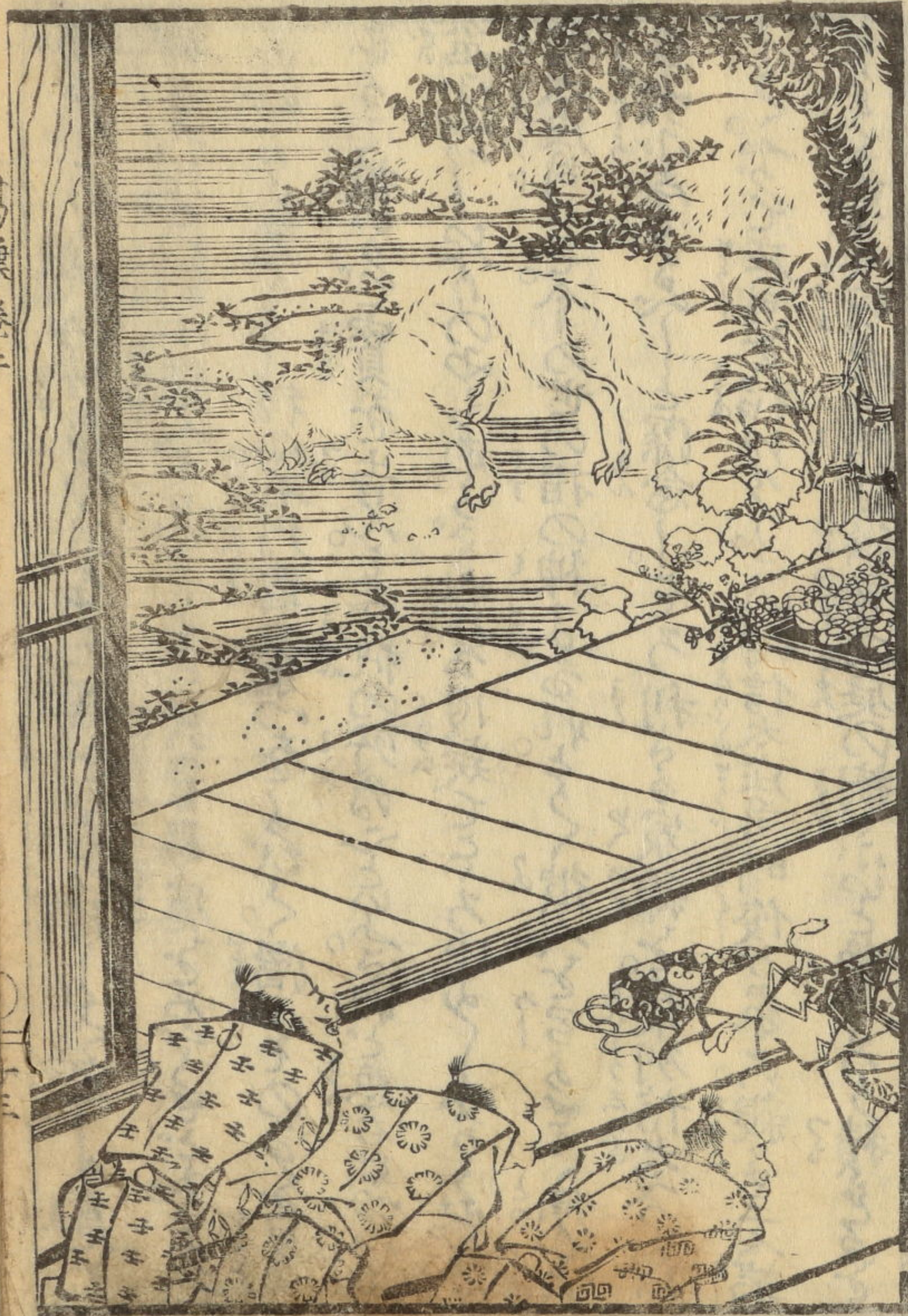
館たか小入るときく。まづ千枝丸ちえまるをひびく。預あづけるをえとて仰あやす
む千枝丸ちえまるをほく。むの相あひまをりて出いる。定邦さだちかのちるもほ
くとうち用もちく小玉こたまのりてく。碎くだくあせり且かつ驚おどり且かつ怒いかりその
故ゆゑを問と小千枝丸ちえまるのひ設あるるあせり畏おそりて中なか。以も秘ひ蔵ざうの
宝珠ほうしゆとく預あづけめひきと。薨しんた小玉こたましてさうく。散ちゆひつる。
その小玉こたまとく預あづけめひきと。薨しんた小玉こたましてさうく。散ちゆひつる。
いともあられ一命いちめいを助たすられ故郷こきやうへ追おうされん小玉こたまの莫大もくだいの愚おろこ
こあうとく。おど定邦さだちかの只呆ただろをて。志こころが程ほどの回かへりもさぐ。
虫むしの缺けつるとこれ彼かれまさうく。魁かゝあせつ。眉まゆを預あづける。千枝丸ちえまる



缺けつると虫むしの一ひと顆つぶ。今いま一ひと顆つぶの虫むしのり小玉こたまのり。同どう小千枝丸ちえまるも
やう。曉あきり。さう一ひと顆つぶの虫むしの悪あく有あり。盗ぬすり。兩顆りゆうかくあぐ。碎くだく
りと偽いつはりり。さう一ひと顆つぶの虫むしのり小玉こたまのり。同どう小千枝丸ちえまるも
あれ。さう一ひと顆つぶの虫むしのり小玉こたまのり。同どう小千枝丸ちえまるも
もひり。後のちに。改かへを低ひく居ゐる。定邦さだちかのちるもほ
あせり。小玉こたまのり。さう一ひと顆つぶの虫むしのり小玉こたまのり。同どう小千枝丸ちえまるも
認まん。求もとめ。一ひと顆つぶの虫むしのり小玉こたまのり。同どう小千枝丸ちえまるも
小玉こたまのり。さう一ひと顆つぶの虫むしのり小玉こたまのり。同どう小千枝丸ちえまるも
贈たまり。さう一ひと顆つぶの虫むしのり小玉こたまのり。同どう小千枝丸ちえまるも

缺るををる。摺へて庭へをうくと投捨る。千枝丸も今一匿小
つらねにを困るとする。如城定邦奮然とく死り。腰の刀
を抜とええ。千枝丸の隅の鬚まど。乾竹割小切離
れ鮮血を塗れ。倒れり。時小庭の本蔭より。一雀の白狐忽然
と走り出。缺るをを前足り。く。あつ。一口小香。定邦
えく。小怪。床は立る。小矢刺。引て。と。鼓。紙の
あく。遊。せ。矢の踏。石小礮。中。鏃。碎。く。飛。散。り。お。居
あ。い。で。る。家。隸。と。も。主。君。の。短。慮。日。來。小。の。ま。あ。こ。も。一。も。龍。の
り。千。枝。丸。と。一。口。の。下。小。命。を。う。あ。る。を。え。く。戰。慄。く。是

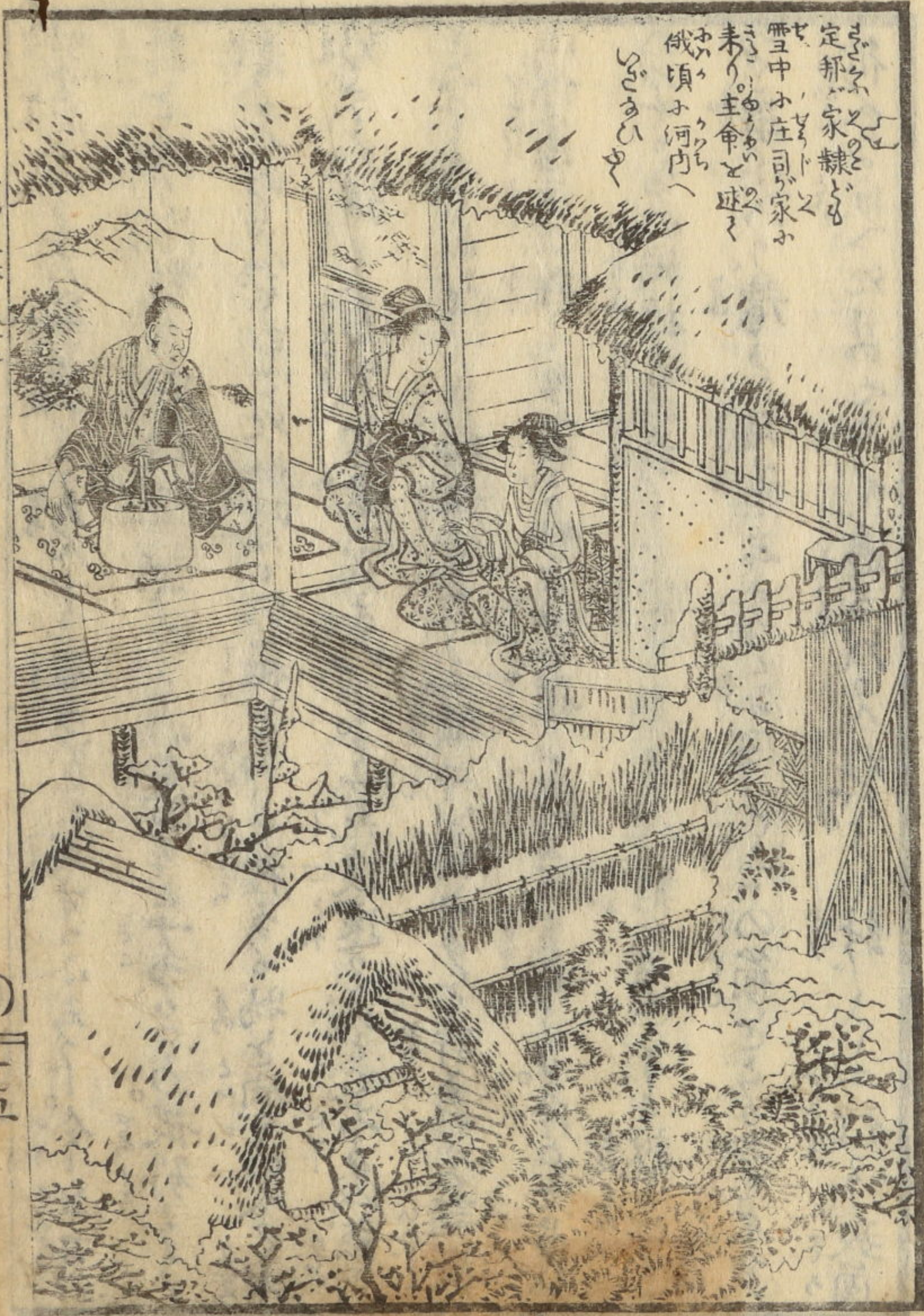
非をいふれ。又紙を追。留んとせ。を空しく。列居り。り
於。定。邦。や。怒。ま。り。つ。つ。と。ひ。や。ぐ。ま。小。去。年。の。夏。信。太
庄。司。が。あ。う。く。あ。ら。ま。り。れ。を。三。び。失。ふ。あ。る。と。い。ひ。つ。る。向。小。の
宮。本。を。非。令。小。あ。り。今。又。を。う。あ。ひ。く。彼。千。枝。丸。と。殺。じ
こ。と。を。これ。紙。の。崇。小。く。彼。が。死。美。の。所。あ。ら。ま。と。あ。ら。ま。これ。を
が。う。死。ま。り。く。勇。死。こ。る。も。あ。ら。う。あ。う。く。千。枝。丸。が。死。を。憐。れ。厚
く。棺。と。造。り。く。亡。骸。を。和。泉。あ。る。正。覺。庵。へ。送。り。て。懇。小。吊。せ
よ。と。う。ま。づ。屍。を。う。た。り。く。出。さ。り。が。又。あ。ら。ま。こ。の。件。の。紙。の。紙。の。死
美。の。所。あ。ら。ま。あ。り。あ。ら。ま。一。顆。の。紙。の。千。枝。丸。が。失。ひ。つ。ると。あ。ら



定邦王の失ふる
 王と庭前へ投捨
 忽ち千枝れと害
 へるの付白狐
 顕出く碎るる
 玉と拾ひて逃
 失るる

ゆる小ねも疵の所あるべしと一顆とづらひ空しく是と
砕き入たこ別小盗人あるべしと口音思慮とめづるを
良がりありり後小石川悪右衛門をひく潜小そのひき
まる小彼いりて實を告んを疵の所あるべしと悪右衛門
築小らう一たりのめもあらざれば疑てとらひめ女らうと彼
信太庄司と今世の指の神子あれと彼人を召させし同ん
事明小まらうと深念しと利る家隸と泉別信太へつら
く。かど庄司と招たつ。この時信太庄司晴俊が家親子三人端
ちうらまきく呀つうの降る淡雪の庭の樹小いとゆもらう積る

あがれ居も二月の雪のあふひもて積る返く鮮るをす小篠が
うのまき雪も風のまき散るを庄司つくととる昔加茂保憲
り。とねを相して年紀卒に及び禍あはんと宿業のあと不ありと
示しあひが今春既小卒歳今淡雪の降るを見く。ふ死期の近く
と知り。そよ今日領主より。それを招れあひあり。これ禍の末
とらうとこひひねが妻の生葛女史葛葉うち秘めて淡さうと
思へる。と空あひのう。領主より。禍の降らうとありあひ。病小
候。固辞ある。竹の妨あふと。庄司らう。病小
病あり。と。あふん。短慮の領主と。奴。罪。らう。あふん。



定那家隸とも
 雪中小庄司の家
 未の主命と述く
 俄頃小河内へ
 500

廿四并木 卷二

五



必^{かならず}定^{さだ}む^まく^るハ^ハ罪^{つみ}を^をら^んん^ん。罪^{つみ}あり^しと^に死^しす^る小^こ治^ち。今^{いま}半^{はん}百^{ひゃく}の
 數^{かず}を^をら^んら^ら。何^{なに}の^の命^{いのち}を^を惜^{おぼ}む^べん^べん。死^しす^ると^にあ^あら^るころ^に撰^{せん}別^{べつ}より
 ま^まる^る人^{ひと}あ^あん^ん。その^の死^し如^{ごと}く^に此^この^の相^{さう}を^を出^いし^て裡^{うち}の^の物^{もの}と^を同^{どう}する^人者^{もの}
 け^けこ^この^の強^{つよ}く^を葛^{くわ}藤^{とう}を^を妻^{つま}め^めと^すべ^べん。死^し後^ご遠^{とほ}く^をと^して^おの^の心^{こころ}を^を止^とめ^め
 ま^まづ^づん^ん。れ^れど^ど先^{せん}師^し保^ほ憲^{けん}の^の識^し神^{しん}を^を使^{つか}ひ^てを^を許^{ゆる}せ^んと^を請^こへ^ん
 小^こ保^ほ憲^{けん}更^{さら}に^に詩^し一^{いつ}の^のを^をは^はが^が孫^{まご}に^に傳^{つた}へ^んと^をい^いふ^の。今^{いま}と^とい^いふ
 め^めり^りの^の禍^{わざはひ}福^{ふく}吉^{きち}凶^{きう}前^{まへ}より^をさ^さま^まる^る。あ^あら^らど^ど對^{たい}を^をあ^あひ^ひと^と説^と示^し
 つ^つ蘭^{らん}小^こ入^いり。豫^よく^を用^{もち}意^いを^をと^とお^おぼ^ぼく。二^にの^の箱^{はこ}を^をと^とり^てせ^せを^をえ^え
 彼^{かれ}は^は何^{なに}の^の國^{くに}に^にた^たり^てと^をい^いふ。遍^{へん}と^とな^なら^らぬ^べん^べど^ど封^{ふう}を^を二^に行^{こう}す^る。教^{きょう}園^{えん}

字^{あざな}を^を守^{まも}り^て。浩^{こう}如^{じゆ}小^こ領^{りやう}主^{しゆ}定^{てい}邦^{ぱう}の家^け隸^り。五^ご七^{しち}人^{にん}の^の從^{じゆ}者^{しや}と^を將^{しやう}く^村長^{ちやう}小^こ聚^{くわい}
 國^{くに}を^を作^{つく}り^て。庄^{しやう}司^しの^の名^なを^を對^{たい}面^{めん}し^て。領^{りやう}主^{しゆ}定^{てい}邦^{ぱう}同^{どう}の^の名^なを^をい^いふ。今^{いま}示^し
 る^る。此^この^の名^なを^をい^いふ。葛^{くわ}藤^{とう}の^の妻^{つま}め^めと^すべ^べん。死^し後^ご遠^{とほ}く^をと^して^おの^の心^{こころ}を^を止^とめ^め
 一^{いつ}の^の命^{いのち}を^を惜^{おぼ}む^べん。死^しす^ると^にあ^あら^るころ^に撰^{せん}別^{べつ}より
 ま^まる^る人^{ひと}あ^あん^ん。その^の死^し如^{ごと}く^に此^この^の相^{さう}を^を出^いし^て裡^{うち}の^の物^{もの}と^を同^{どう}する^人者^{もの}
 け^けこ^この^の強^{つよ}く^を葛^{くわ}藤^{とう}を^を妻^{つま}め^めと^すべ^べん。死^し後^ご遠^{とほ}く^をと^して^おの^の心^{こころ}を^を止^とめ^め
 ま^まづ^づん^ん。れ^れど^ど先^{せん}師^し保^ほ憲^{けん}の^の識^し神^{しん}を^を使^{つか}ひ^てを^を許^{ゆる}せ^んと^を請^こへ^ん
 小^こ保^ほ憲^{けん}更^{さら}に^に詩^し一^{いつ}の^のを^をは^はが^が孫^{まご}に^に傳^{つた}へ^んと^をい^いふ^の。今^{いま}と^とい^いふ
 め^めり^りの^の禍^{わざはひ}福^{ふく}吉^{きち}凶^{きう}前^{まへ}より^をさ^さま^まる^る。あ^あら^らど^ど對^{たい}を^をあ^あひ^ひと^と説^と示^し
 つ^つ蘭^{らん}小^こ入^いり。豫^よく^を用^{もち}意^いを^をと^とお^おぼ^ぼく。二^にの^の箱^{はこ}を^をと^とり^てせ^せを^をえ^え
 彼^{かれ}は^は何^{なに}の^の國^{くに}に^にた^たり^てと^をい^いふ。遍^{へん}と^とな^なら^らぬ^べん^べど^ど封^{ふう}を^を二^に行^{こう}す^る。教^{きょう}園^{えん}

世書卷四十一

